

タカタ欠陥エアバッグに 対するドイツ国内の反響

—信用喪失—

米国等で、死傷者をだしているタカタのエアバック欠陥問題のつき、12月18日、ドイツのAschaffenburg（アッシュャップエンブルグ）にある、タカタ・ヨーロッパの現地法人は、ドイツの新聞に詫び状を掲載。現在までに5名に上る死傷者を含め、100件以上起きているタカタのエアバック欠陥事故につき、タカタの技術問題であることを認め、いたらぬところを詫びるという形式の記事をリリース。



12月18日夕刻のバイエルン放送ニュースのスクリーン

Duisburg（ドイスブルグ）の自動車評論家で定評のある Prof. Ferdinand Dudenhöffer（フ



エルディナンド・ドゥデンヘーファー教授、写真上）は、この異例の日本企業からのプレスリリースに、すでにおきてしまった事故に対する責任のとりかた、今回の連続して起きた事故に対するタカタの姿勢は、サプライヤーとしての信頼を落としていると、強い違和感を抱いている。謝罪の意のみを表明するのでは、安全体策への根本的姿勢にかけており、非常に信頼性をモットーとする日本製品へのありがたに、新たな疑問を投げかけている。おそらく、すぐに、タカタをエアバッグのサプライヤーとして指名している自動車メーカーは、該当各モデルに、リコールをかけざるを得ないと同教授は見ている。

Prof. Ferdinand Dudenhöffer は、世界市場の20%をとる日本のリーダー格のサプライヤー、タカタの大失態、信用喪失と、バイエルン放送（Bayerischen Rundfunk）とのインタビューで語り、今回の事件は、そう簡単に消す去ることの出来ない汚点として残るだろうと、コメント。

世界市場にエアバッグを調達するタカタの今回の欠陥事故は、ドイツをはじめとする欧州の自動車メーカーに大きなネガティブな波紋をおよぼすことは避けられない。

ドイツ側での調査では、IngolstadtにあるVolkswagen GroupのAudiは、日本のサプライヤーからのエアバックは、使っていない。また、Daimlerも、タカタは、一応サプライヤー登録はされているが、実際に各モデルには未搭載。しかし、BMWの各モデルのエアバッグは、タカタ製。12月

18日現在、BMWは、今後の対策についてあえて、表明を避けているが、リコールアクションがとられるものと見られ、実際には、各BMWのCustomer Centerを中心に行われると見込み。



今後の対策には、慎重なスタンスのBMW

また、Der Spiegel誌によると、主に米国で死傷者を出しているタカタのエアバッグは、高湿になると、破裂し、金属小片が、衣服を通過、人体に刺さり、惨事を招くと解説されている。ドイツ国内では、まだ、事故は、通報されていないが、潜在的欠陥エアバッグを搭載した車が、欧州を走っている可能性は、十分にあり、専門家は、今後、約2000万台の車が、リコールされるものと予測している。

(小澤エネルギー研究所
Setsuko Schwarzer 19.12.2014)

Information source:
Bayerische Rundfunk 19.12.2014
<http://www.br.de/nachrichten/unterfranken/inhalt/airbaghersteller-takata-aschaffenburg-100.html>

Der Spiegel 19.12.2014